

おおくまてるお 大熊輝雄

松岡洋夫 東北大学名誉教授

大熊輝雄先生（1926-2010年，享年83歳）のご功績は精神医学全般にわたり，特にてんかん，臨床脳波，睡眠生理，精神薬理の領域でのご活躍は顕著なものであります。それらは多くの追悼文や学術論文などに記されていますので，ここでは私が個人的に大熊先生から指導を受けたこと，特にてん

かんにまつわる裏話をご紹介します。

大熊先生は1949年に東京大学を卒業後，カリフォルニア大学，ハーバード大学，順天堂大学（助教授），東京大学（講師），鳥取大学（教授）を経て，1974年に東北大学に教授として赴任されました。

私は1978年に東北大学精神科に入

局し，以後，大熊先生が1985年に国立武蔵療養所（現 国立精神・神経医療研究センター）に転任されるまでの7年間，臨床と研究の手ほどきを受けました。

私の最初の研究対象は，高次精神活動で誘発される反射てんかんで，読書，書字，計算，構成行為などで異常波が誘発される症例を，“神経心理学的脳波賦活法”を独自に考案して研究していました。各精神活動で活性化される脳部位にてんかん焦点が存在すると，その部位に優勢な異常波が賦活されることを発見してまとめているとき，それまでとは異なる様態で発作が誘発される症例に出会いました。それまでとは異なり，部位特異性や課題特異性を認めず，当初の作業仮説が崩れてしまい，われわれは頭を抱えていました。そこで大熊先生に相談したところ，いとも簡単に「活性化部位だけにこだわらず他の機序の可能性を考えては」と指導されました。そこで異常波出現タイミングを詳細に観察したところ，作業の開始直前に異常波が集中する“意志決定てんかん”や“精神的緊張で誘



大熊輝雄